

## ⑥3 田老地区復興まちづくり整備事業

受賞機関 宮古市  
独立行政法人都市再生機構 岩手震災復興支援本部 市街地整備部

### <評価>

市街地復興に向け、今回クラスの津波でも浸水しない町にするため、土地区画整理事業で国道を山側にルート変更し、背後の宅地も含めて嵩上げを行い、実施した。一方で今後も津波被害が大きいと思われる地域では、高台の住宅団地に移転する防災集団移転促進事業を行った。急がれる復旧事業でありながらも合意形成に向けきめ細やかな対応をした点や、発注方式の工夫などで約3年で事業完了した点が評価された。

### はじめに

岩手県宮古市は本州最東端に位置している。市北部の田老地区は、過去、何度も津波による被害を受け、そのたびに復興を成し遂げてきた。昭和三陸地震津波後は、万里の長城とも呼ばれた防潮堤を築き、毎年欠かさず津波避難訓練を行うなど、ハード・ソフトともに津波対策を実施してきた。しかし、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の津波により、またもや壊滅的な被害を受けた。

### 事業の概要・成果

宮古市では、二度と津波による犠牲者を出さないという決意のもと、市民主体の計画づくりを行い、その計画を基に市街地山側の嵩上げと山林を切り開き高台に住宅団地を整備する復興まちづくり計画を策定した。その後も個別面談によるきめ細かな情報提供と対応を続け、事業計画に反映している。市民全体でのまちづくり検討や個別面談による意向把握はマンパワー不足と急がれる復興事業の中では大変な取組みだった。しかし、この取組みにより市民との合意形成が図られ、事業を通じて大きな反対や計画の変更



住宅建築の進む高台移転団地（平成28年5月）

が生じることはなかった。また、事業実施ではCM方式を採用し、急ぐ箇所から設計を行い施工に反映する設計施工一体となったロスのない事業展開を行った。

これらの取組みにより、スムーズな事業進捗が図られ、約3年での完了が実現できた。

### おわりに

震災から5年が経過し、多くの工事が完成を迎えていますが、まだまだ復興は道半ばです。今後も復興への歩みを止めず、活気と笑顔あふれる宮古市を一日でも早く取り戻すことができるよう取り組んでまいります。

最後になりましたが、東日本大震災以降、宮古市を支援して下さったすべてのみなさまにお礼を申し上げます。

賛助会員 鹿島建設㈱、大日本コンサルタント㈱

## ⑥4 福島県復興公営住宅整備工事（富田団地1号棟）

受賞機関 福島県 県中建設事務所

### <評価>

故郷を離れて暮らす避難者の生活基盤となる住宅の整備事業。環境配慮やユニバーサルデザイン等、今後公営住宅に求められるプランの標準化を図っている点や、ライフサイクルコスト削減と長寿命化を図っている点が、今後の公営住宅整備の嚆矢になるものとして評価された。

### はじめに

福島県では、原子力災害により避難の継続を余儀なくされている方々の居住の安定の確保を目的に県全体で4,890戸の復興公営住宅を整備している。

富田団地は、郡山市の富田東土地区画整理事業区域内に4棟154戸の復興公営住宅を整備したものである。

### 事業の概要・成果

富田団地1号棟は、富田団地の最初の棟として平成25年11月から約1年の工期で整備しており、早期供給と長寿命化はもとより、将来の補修・改修を容易にするため「福島県公営住宅標準設計マニュアル（平成15年度策定）」に基づき、スケルトン・インフィルによる厚肉床壁構造を採用している。この工法により南面に広い開口が生まれ、十分な採光による快適な居住空間を提供するとともに、水周りを集約化することで、設備の補修・改修をしやすいものになっている。

また、段差をなくすなどのユニバーサルデザインの導入や、避難されている方々が交流できる集会所の整備、さらには、屋上に設置した太陽光発電による集会所や共用部分の電気の供給など、入居者の生活環境やコミュニティの醸



福島県復興公営住宅（富田団地1号棟）

成にも配慮した住宅に仕上がっている。

### おわりに

富田団地は、復興公営住宅として、可能な限り早期に提供し、生活再建につなげてもらうことが最も重要な課題であった。こうしたなか、これからの公営住宅として高い品質の確保を目指すとともに、居住環境の向上にも取り組んできた。

今後とも、住んで良かったと言ってもらえる公営住宅のより良い住環境づくりに取り組んでまいります。